

会 議 録

1 会議名

令和8年度第2回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項について

（2）その他

4 その他（公開）

・次回地域協議会日程について

・その他

5 開催日時

令和8年5月21日（木）午後6時30分から午後8時55分まで

6 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

7 傍聴人の数

1人

8 非公開の理由

なし

9 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

委 員：山岸会長、薄波副会長、上野委員、太田委員、大滝委員、斉藤委員、
関澤委員、田中委員、田邊委員、新部委員、橋爪委員、武藤委員

事務局：吉川区総合事務所 岩野所長、山本次長、丸山教育・文化グループ長、
宮下市民生活・福祉グループ長、吉村地域振興班長、道場副主幹
地域政策課 内海課長、田村（隆）主任

10 発言の内容（要旨）

【山本次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・委員 12 人の出席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：田中委員

【山岸会長】

(挨拶)

【山本次長】

- ・議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- ・それでは、3 の報告事項だが、会長報告は特にない。
- ・次に委員報告を橋爪委員にお願いします。

【橋爪委員】

(「令和 7 年度第 3 回新潟県立柿崎病院後援会理事会 会議メモ」により報告)

【山岸会長】

- ・松代病院で入院機能が廃止になった。柿崎病院もそうなるのではと非常に不安を大きく持っている。県は、ほかの病院と統合というか、総括でやるという方向性を示している。赤字赤字というが、人の生命に関わる部分で商売になるとかならないとかというレベルの話ではないと思う。橋爪委員、橋爪市議からは、柿崎病院に関わる部分で機会があれば、強くそんな話もしていただければありがたいと思う。私たちもいずれどこかにお世話になるが、だんだんそういう時期が近付いている者だからこそ、病床が無くなる、看護師や医師が減っていってしまう、今度はあそこまで通わなければ診てもらえない、その不安というのはどんどん大きくなる。お忙しいでしょうが、ぜひ、今後もお願いしたいと思う。
- ・太田委員、お願いします。

【太田委員】

- ・5 月 15 日に吉川高等特別支援学校の総会があった。資料の用意はないが、口頭で報告させてもらう。内容的には大きく変わることはなかったが、今年から薄波副会長が新しく後援会長ということで着任していただいた。

【薄波副会長】

- ・柿崎病院の件で補足したい。看護大学をご存じと思うが、看護大学を卒業した人は、なかなか地元に残らずに、都会の方へ、関東圏の方へ行ってしまうというので、学校があっても看護師不足であるという状況を話されていた。

【山岸会長】

- ・次に、事務局報告をお願いします。

【山本次長】

- ・事務局から、地域自治の推進に向けた今後の方策案について、本日、地域政策課が来ているので、地域政策課から説明をする。

【内海地域政策課長】

- ・本日は、地域協議会や住民組織、地域独自の予算事業に代わる新たな補助制度など、地域自治を進めるための今後の案についてお伝えし、意見を伺いたいと思う。
- ・市では、令和4年度から検討を進めて、1年前にこちらに伺って意見交換させてもらった。また、11月に新しく小菅市長が就任したことを受けて、我々も市長と協議を重ねてきて、ようやくこの時点で市の考えをまとめるに至った。これから説明するが、皆さまには質問や忌憚のない意見等をいただきたいと思っているのでよろしくをお願いします。
- ・補足だが、手元に意見・感想シートをお配りした。今日、時間の都合で話しきれなかったとか、後でこれを言うのを忘れていたとかいうことがあれば、こちらの用紙に書くなり、インターネットに接続するなりして提出いただきたいと思う。

【田村主任】

(資料1「地域自治の推進に向けた今後の方策案について」により説明)

【山岸会長】

- ・事前に資料に目を通していただいていると思うが、今ほどの説明を聞いた上で皆さんから質問や意見をお願いしたいと思う。いかがか。

【新部委員】

- ・令和7年3月の方策案と今回の方策案の違いがかなりある。地域協議会の在り方についての変更点、改正はなんとなく分かる。要は現行制度とそれほど変更しないように、変更の提案がいろいろあったが結局現行どおりに、今はとりあえず進めて行こうという話だと思う。もう一つ大きな流れとして、①の地域活動の活性化と②

の実行体制の構築というのが、令和 7 年 3 月の段階で提案されていて、それに対して今回、市長も代わったし、いろいろ体制も変わった、ヒアリングを受けた内容によって変えたのだと思うが、もう少し分かり易いように言うとうなるのか。

- ・一つ私が気にしているのは、補助金を 7 割にするとか 9 割にするとかという話があって、例えばちょっとした花壇をつくるとかで補助金をもらってやっていたが、自己資金が 3 割とか 1 割とかない場合はもう補助金がもらえなくなるという話が令和 7 年 3 月の段階で提示されていた話なのだが、そこがどう変わったのか。いくつかわ変わった点があると思うが、それをもう一度整理していただきたいと思う。

【内海地域政策課長】

- ・補助制度については、資料の 13 ページをご覧くださいと思いますが、まず補助率の関係では 10 割補助も可能となる。つまり自己負担がなくても実施できるようになるというところが一番大きなポイントになるかと思っている。それから 2 点目は、提案時期が今の制度では前年の 8 月とか 9 月に締切があるが、これが早すぎるということをお願いしているので、今回 12 月末まで延ばさせていただく。なぜ 8 月、9 月だったかという、今の制度は一つ一つの事業を議会に諮るためにこの早さだったのだが、今回は、吉川区にいくらというところは議会に諮るけれども事業一つ一つについては地域で決めていただくことになるので、その分、12 月末まで募集期間を延ばさせていただく。1 月から 3 月の間にどの事業かということを決めていただければ、4 月から実施が可能になるというところが違う点になる。

【新部委員】

- ・突然、去年の提案とはかなりの変更になった。まちづくりスタートアップ補助金など今までなかった。

【内海地域政策課長】

- ・方策案①と②という形で 2 つの補助制度は出ていたということは同様になる。1 年前についても、できるだけ自己負担がない形で、つまり以前に地域活動支援事業というものがあつた時に、地域にお金の枠を決めさせていただくというところは、基本的な考え方で 1 年前にも考えていたところである。今回、市長が代わってより具体的に詰めさせていただいたものが①番かなと思っている。②番については、昨年度からもあつたが、①番と②番の棲み分けがなかなか分かりにくいという意見もいろいろある中で、基本的には①番の方が予算規模はかなり大きいものになると思う。②番の方は一つ 10 万円とか 20 万円とかささやかなものになるかもしれな

いが、まちづくりを新しく取り組みたいというような人で地域協議会を通さない、つまり区域にこだわらないような市民活動についても補助していききたいというところで、①番と②番の棲み分けを図りたいというところで若干の修正になったかなと思っている。2つの制度を併用するということについては、去年と変わらないところかと認識している。

【新部委員】

- ・予算規模の関係というのは、市議会にかけて毎年毎年変わるので、①番の協働・共創まちづくり補助金というのが吉川区にどれくらい落ちるかとか、従来の補助金とどれくらい変わるのかとか、それは何とも言えない話なのか。

【内海地域政策課長】

- ・まだ議会とも詰め切れていないところでもあるので申し上げられないが、先ほど少しお話ししたように、地域活動支援事業があった時にどのくらいの額だったかというところは一つの目安にはなるので、そういった規模感でというところで今日のところはご勘弁いただきたい。

【新部委員】

- ・最後のページに、今後のスケジュールが載っているが、今までは補助金は9割になると我々は認識していた。令和8年中に次年度の事業提案を9月にやる、それ自体もなくなっているが、議会を通さなくてはいけないわけだから旧会計年度の部分というのはどうなるのか。具体的には。今は8年度だからもうこのビジョンにはならないのか。

【内海地域政策課長】

- ・例年では9年度の事業をしたいという場合は、すでに申込が始まっていて、8月まで9月までに出してもらおうという状況であったと思う。それはもう今はなしということにさせていただいて、その代わりにこの新しい制度で来年度から始めさせていただくので、今度は、12月までに新しい仕組みで申請をお願いしたいということになる。

【関澤委員】

- ・ちょっと理解できないのだが、現在の補助事業は地域独自の予算事業という形で、以前は28区にお金を分割して、後の細かい部分は人口割合だった。そういう制度もあるということか。協働・共創まちづくり補助金とまちづくりスタートアップ補助金と2つあるということか。

【内海地域政策課長】

- ・お話のあった村山市長の時代の地域活動支援事業、それから中川市長の時の地域独自の予算事業、これの後継の補助金は①番の協働・共創まちづくり補助金になる。2つを組み合わせたような補助金になっていく。

【関澤委員】

- ・現在ある地域独自の予算事業は、この①に該当すると。それは、私たちが審査しなくても、市議会に提出してやってもらう方式になるのか。

【内海地域政策課長】

- ・13 ページの左下に審査と書いてある。ここについては、地域協議会にてできるだけ簡素な方法でお願いしたいと思っている。補足させていただくと、これもかつて地域活動支援事業の時は、お金の枠を各区に配分して、後でどの事業を選定するかは地域協議会で決めてという方法であった。その時にいろいろな区から、応募する方も審査する方も大変負担が大きかったと、量的にも精神的にもかなり負担をきたしたという声があった。
- ・その反省もあって中川市長の時代に地域独自の予算事業になった時に、審査の方は議会を通して市と議会の方でやるという話に変更になった。なったらなったらで、今度は、地域自治制度なのに地域協議会との関わりがなさすぎるのはどういうことなのだという意見もいただいてきたところである。
- ・それで我々は、この2つの意見をどういうふうに整理しようかと思った時に、やはり地域協議会に関わっていただくことは必要だろうと思った。思ったが、やはり負担をできるだけなくそうとした場合に、例えば、以前は採点の仕方とかまで全部地域協議会に決めてもらって、ルールも全部決めて、プレゼンもして大変だったというところがあるので、採点の基準とかそういったものは我々の方で用意して、皆さんの方にできるだけプレゼンもしない形にさせてもらって簡素な方法で審査をお願いしたい。だから、議会に通さなくても良い方法を考えている。

【関澤委員】

- ・①の協働・共創まちづくり補助金と②のまちづくりスタートアップ補助金で、前者は、地域の団体は5人以上の構成員で良いと、それから後者は、2人以上で良いというが、同じような事業になっているような形なので、ここを良く説明してもらいたいと思う。

【内海地域政策課長】

- ・②番は、比較的小規模の事業で今までやっていない取組だが、これから新しくやってみようというような、例えば若者の団体がちょっとイベントをやってみようとかそういった時に10万円、20万円程度の上限額の中で地域協議会の審査も受けず、また、どこの区のものであるとも特定しないものを②番の方で対応させてもらいたいと思っている。こちらは予算的にもそういったレベルになる。①番の方は何度も話しているように、この間の地域活動支援事業、地域独自の予算事業を継承していくような大きな規模の補助金になるので、やはり地域で決めてもらって厳選したのだからそこに厚い手当をさせてもらうという仕組みになる。

【関澤委員】

- ・①は、村山市長の際に約2億円のお金を28区で割って、後は人口割にした、それがこの①という形になると。

【内海地域政策課長】

- ・そう捉えてもらって結構である。

【関澤委員】

- ・そうすると、例えば、具体的に以前は吉川区に500万円か600万円くらい配分が来て、その中で希望する団体が予算を立てて、その枠内で事業をやるということであった。今回のものも協議会委員がやはり審査するというように見えるが、そういう形なのか。

【山岸会長】

- ・関澤委員にお願いしたいのだが、ほかの委員も質問があるかと思うので、今、答えてもらったら、そこで1回切ってもらって良いか。

【内海地域政策課長】

- ・先ほど話させていただいたとおり、地域協議会には一定程度関わっていただきたいという考えである。

【関澤委員】

- ・①の協働・共創まちづくり補助金というのは、地域協議会の委員も携わってもらいたいと、そして、まちづくりスタートアップ補助金というのは、地域協議会の審査の段階がなくても申請できるということか。

【山岸会長】

- ・関澤委員。繰り返すが、ほかの委員にも質疑や意見があるかと思うので、ほかの委員の意見も出させてもらいたい。1回止めてもらいたい。よろしいか。ではほかに。

【橋爪委員】

- ・流れだけ確認させてもらいたい。①番の方で均等割、人口割の総枠など枠組が決められるが、その場合には、前年度の独自予算の実績とかそういうのも加味されると思うが、それが大体9月頃なのか。さらに12月まで吉川区としては事業を受け付けるといった時に、例えば、それ以上受け付けなければ10分の10の補助額の可能性もあるし、事業が多く出てくれば負担も出てくるのかなという気がするが、その辺の額の総額というのが気になるのだが。

【内海地域政策課長】

- ・その点が私の立場から申し上げづらいところでもあるが、当然皆様からすると早く知りたいとは思う。通常だと、いくら枠だけを議会に示すとしても、決まるのは来年の3月になってしまう。それだと皆さんお困りだと思うので、その点は当然市長始め上層部や議会といろいろ事前に調整させてもらって、どの時期に示すことができるかというところは、頑張りたいと思うというところでは今日は申し上げられない。よろしくお願ひしたい。

【薄波副会長】

- ・確認だが、令和7年3月の時の方針の中に、委員の選定という項目があって、その中には、団体推薦と公募と2つあって、公募の中で人数がオーバーした場合は、総合事務所で書類審査で行うという文言が載っていたはずだ。今回はどこにも載っていないのだが、それは消えたということで解釈して良いのか。

【内海地域政策課長】

- ・端的に言えば、そのように取っていただいて結構である。資料の23ページや24ページがそれに該当するところになるし、24ページの下の方に令和7年3月時点の方策案の課題と書かせていただいた。確かに昨年度はそういった提案をしたが、様々な地域協議会からその考え方はどうなのかとか、できるのかといった様々な角度から意見をいただいたので、今回改めて見直しをさせていただいた。

【薄波副会長】

- ・地域ビジョンの策定に関して確認させてもらうが、地域ビジョンの策定をしてその結果、それに基づく補助を行うというのが、先ほどの①の協働・共創まちづくり補助金だが、ということは、地域ビジョンを作らなければそれに基づいた判断をして採用できないということになる。このスケジュールを見ると、来年度から補助金が活用されるということは、12月締切だとしたらそれまでには地域ビジョンを作ら

ないといけないということか。

【内海地域政策課】

- ・スケジュール自体がタイトになっているところは申し訳ないと思っているので、地域ビジョンについては特に初年度は時間もないので、皆様に配布いただいた地域活性化の方向性というのが、私から見てもかなりいろいろ工夫して作ったのだろうと推察するが、これを参考にしていただいて、ここに沿うものについてはなるべく優先的にというようなところで見ていただきたいと思う。
- ・また、このビジョン自体をもっとこうしたいというところがあれば、任意であるが、また来年度以降の審査に向けて自主審議の方で改善をお願いできればと思っている。

【薄波副会長】

- ・とりあえずは、今のこの方向性の資料に基づいて進めるという考え方で良いか。先ほどの説明の中で、地域ビジョンを作っても作らなくてもどちらでも良いような話がされていたような気がするが、そういうことではないのか。

【内海地域政策課】

- ・誤解があったら申し訳ない。先ほど説明したのは、地域ビジョンについてはいろいろな作り方があると思うし、一番簡易なものは今あるものをそのまま使ってもらうことである。現実に1年目は多分そういう形のところが多いと思う。ただ、地域協議会によっては、これ以外に似たようなビジョンが実は地域で作られているとか、この間せっかく自主審議でいろいろな課題を出しているの、この際に付け加えたいというようなところもあるので、そこはそれぞれの区に任せるということで伝えた。
- ・もしかすると、作っても作らなくても良いというのは、地域運営組織についてそのように申し上げた。地域組織は作ってくださいではなくて、作りたいという希望のあるところに対応させていただくというふうに考えている。

【薄波副会長】

- ・今の話は分かるが、私としては地域ビジョンの策定が地域協議会の仕事なのかと言われると、ちょっと違うのではないかという意識がある。地域協議会は、諮問と自主的審議事項で意見書を出すという組織であって、地域ビジョンを作る組織ではないという気持ちはある。もし作るのであれば、別の組織でその地域のことを考えた団体を起こして作るとか、そういう形で進めれば良いという気がしているが、今

のこのレベルのもので対応して、それに基づいて評価、審査するのであればそれは良いけれども、社会福祉協議会でも同じようなことをやっている。福祉に関してもビジョン的なものを作っている。それを2年かけて作っている。しかも、人数的に25人くらい集まって作っていて、それだけの規模のものを本当に地域協議会に作れというのは、ちょっと役割が違うのではないかという気がしたので今質問させていただいた。

【内海地域政策課】

- ・そういった意見をいただくこともある。今のような、社会福祉協議会の地域福祉行動計画、そちらでかなりまちづくりのことも踏まえたような計画を作っている区がいくつかある。おそらく、そういった区は、わざわざまた作り直さずともそれを使えば良いというような判断をされるところもある。
- ・あと、これは多分今年度はないと思うし、我々はもちろん強制できないのだが、ビジョンを作ろうといっても地域協議会だけで作れるものではないので、市民の皆さんにアンケートを取ったりとか、策定する時には、別の若い人も入りながらとか女性もちょっと増やしながら、別の組織をちゃんと作って、本当に地域の総意となるようなビジョンを作っていこうという志を持っているところもあるような気がしている。結果的にどのくらいか分からないが、本来的にはそういったことがあるべきと思っているが、最初に話したようになかなかビジョン作りに負担がかかるというのが今の時点では多いので、そのあたりについては、それぞれの区の実情に委ねさせていただきたい。

【薄波副会長】

- ・あと一つ、16ページの地域づくりの学び合いの機会創出のところのコンセプトイメージの右側の枠の中だが、この中のオレンジのところの右下に地域協議会とあるが、こういう区域外の団体が連携して活動するということは認められるという方向で捉えて良いのか。何を言いたいのかというと、4区の正副会長会議を4区で連携した形でいろいろな事業の協議をしようとして一度立ち上げようとしたが、ダメだと言う結果になってしまっている。それを考えると、この図からはそれは積極的に進めろという意味に捉えてしまうのだが、それはどうなのか。

【内海地域政策課】

- ・こちらの図については、その表題にある地域づくりの学び合いの機会創出ということで、まずは、年1回程度を考えてはいるのだが、今までいろいろ意見をいただい

ている中で、おそらく区ごとの活動報告会というのはあったが、ほかの区でどうしているか知りたいとか、そういうやり方があるのかとか、良い事例をどんどん横で共有していく場がないというような話があったので、例えば、社会教育とかの世界では、地域青少年育成会議のそういう場があったりすると思うが、なかなかまちづくりの分野では用意させていただいていなかったもので、そういう場を作ることによって横の学び合いをお願いしたいという意味である。今、薄波副会長がおっしゃられたような組織を作るといふところまでは、この図の中では想定はしていなかったところである。

【薄波副会長】

- ・分かった。まちづくり吉川というか住民組織団体では、すでに4年前からこの頸北地区でこういう交流会は行っている。なので、地域協議会としても公に交流会を進めていければと思っているところである。

【内海地域政策課長】

- ・頸北地区におかれては、そういった取組がすでにあるので、敬意を表するところだが、ぜひ、頸北にとどまらずそういった動きをほかの区にも伝えただけであればという思いもあり、28区が交流できればということでよろしく願います。

【山岸会長】

- ・ほかになければ、関澤委員にマイクをまわすがよろしいか。では関澤委員。

【関澤委員】

- ・市で配分する事業と限度額を決めて配分する事業の2つあるということか。地域協議会で審査をするのは配分された事業についてであり、もう1つのまちづくりスタートアップ事業というのは市で審査するということか。この配分する事業というのは、村山市長の際に全部地域協議会が審査したが、中川市長になったら突然そういう事業ではなくて地域独自の予算事業だということで、13区でちょっと戸惑ったことがあった。なかなかなじめないというか。そして、私はとにかく配分してもらった方が良いのではないかと。地域協議会で審査するのに時間がかかって自主審議事項の時間がなくなるということを見たが、今になってみれば自主審議事項といっても、審議しても何も先行きのないような形で、配分した事業を皆様に平等に配分して活用してもらった方が良かったのかと私は思っていたが、今回、その事業が再現したことで誠に喜ばしいと思っている。そして2番目のこの事業については、まだ限度額が決まってないとのことだが、2つの補助金があると

いうことで良いか。

【内海地域政策課】

- ・そういうことであるが、②番のところは1件10万円とか20万円程度のものだと
いうことで想像していただければと思う。①番だともう少し大きい規模のものも
できると思う。

【関澤委員】

- ・まちづくりスタートアップ事業というのは、そんなに大きな金額は出せないという
理解でよろしいか。例えば、協働・共創まちづくり事業とまちづくりスタートアッ
プ事業を1つの団体が2つとも申請することはできない、どちらか一方しか申請
できないという扱いか、それとも両方ともできるということか。

【内海地域政策課】

- ・1つの団体でも全く違う事業であれば、それはあり得ると思う。ただ、同じ事業を
2つ挙げるということは想定していない。

【関澤委員】

- ・全然種類の違う事業ならどちらでも申請して良いということか。分かった。

【山岸会長】

- ・まずは、我々、協議会の意見を十分に汲み取っていただいて、元に戻したことが良
いか悪いかはともかく、批判というか意見を捉えていただいたことに感謝申し上
げたいと思っている。今の関連で補助事業に関しては、まずは、①の方の総額を早
く提示していただいて、例えば、過去からの数字でいうと1億8千万円の枠の中
でというのは、前期も独自の予算も実はその枠があったのだが、今回はないと私は
聞いているので、それを超える総額をぜひ、お願いしたいところである。というの
は、1割負担3割負担という部分があったので手挙げしていない組織もあるし、団
体もある。しかも申請期間が伸びたということは、かなりの申請が期待できるので、
まず、総額の枠を早めに提示していただきたい。1億8千万円をはるかに超えるよ
うなところをお願いしたいところである。
- ・もう1つは、地域協議会で審査という話だが、これは地域協議会が公募公選制の中
で民意が反映されるので、行政が財布を見てここまでがこれ、ここからがここに使
ってということと違って、民意の中でこの事業に関してはこれくらいで良いので
はないかというのが活動支援事業の採点というか、そういう役割だった。ただ、確
かに負担も多かったが、これを行政でやるということになると、民意はどこまで反

映されるのか私は非常に不安である。簡素化するのは良いが、まずはこの協議会の中で上がってきた事業を精査して、我々の意見があって、その上で、例えば、吉川区に決まった総額の中で総合事務所がどういうふうに配分するか、ここからが総合事務所と我々とのやり取りになると思っている。民意として上がってきた事業で何を大事にしなくてはいけないのかということが、我々が相談する、話し合う立場だと私は認識しているので、それはぜひ、そのようにお願いしたいと思う。簡素化は良いがあまりにも総合事務所が前に出る、あるいは行政が前に出るという形は、非常に好ましくないと私は思っている。そこはお願いしたいと思う。先日の柿崎区での報告も聞いていて大体は理解していたが、実際に当区でこうやって皆さんの意見を伺うと、まだまだ理解しきれていない部分がたくさん出ていると、今やり取りしていただいて全てを理解したかどうかというのはちょっとクエスチョンだと思っている。私の方はそんなことで、これから動く事業に関しては、小菅市長の思いが強くなるかと思うので、できるだけ良い補助事業になるように、私たちと一緒に進めていかせていただければと思っている。

【薄波副会長】

- ・一つだけ確認したいことがあった。地域活動支援事業の時は、ハード事業はダメだということだった。ソフト事業に必要なハードはある程度認められるという内容だったと思うが、今の①の方は、ハード事業がメインの場合はやっぱりダメなのか。

【内海地域政策課】

- ・補助の対象となる事業については、基本的には同じようなもので考えているので、ハードだけということではなくて、この補助金の趣旨が活動によって地域を良くしていくというところにあるので、商品でいうならあくまでも購入して終わりというものではなくて、買っていただくにしてもこういう活動をしたい、そのために必要なのだというところをお願いしたい。

【新部委員】

- ・要望として、薄波副会長が言われたようにハードはダメというのは、何か腑に落ちない。物が買えない。消耗品なら良いが、物を買ってはいけない。来年に残るような物を買ってはいけないというもの。それは、本当は活動を阻害してる。だから、そういう意見があったということだけは入れておいてもらいたい。本当におかしい。消耗品なら良いって言う。物はダメだというのは、車を買う人はいないかも分

からないが、3年も4年も使えるような物を買ってはいけない。看板くらいなら良いが、もっと立派なものを買ったりするといけない。消耗品の類しか買えないという感じである。

【内海地域政策課】

- ・我々としてはそこまでは考えていなくて、消耗品でなかったとしても、例えば、毎年イベント等で行っていくための備品的なものとか、そういったものは当然必要なものは買っていて結構である。ただ、今、話があったように車が1台欲しいというような話だと、それを100%で補助させていただくというのはできない。これ100%補助というのは、申し訳ないがかなり全国的に見ても、本当に異例の補助金であるので、その分大切に使っていただきたいということなので、よろしくお願ひする。

【新部委員】

- ・本当にそこは異例だと思う。だから、前年まで言っていた9割だ7割だというのがなくなったというのは、ちょっと私たちはポカンとしてるが、良いなとは思っている。だから、その部分の①というのは結局、例えば何かの修繕とか何かの補修とかというのも多分疎外される。そういうのをやりたいからというのも入らないかもわからない。

【内海地域政策課】

- ・内容によるとは思う。

【新部委員】

- ・例えば、町の施設で何か継続的に行事や活動をするために、アスファルト舗装をどうだとか、部屋をきれいにしたいとか、内装を変えたいとかとなると、その費用はここに入らないということか。

【内海地域政策課長】

- ・その施設が誰の持ち物かによると思うが、当然公共施設等であれば市が対応しなければならないし、民間のものということになるとそれに対して100%補助をするというのは、原則としては外部の監査等でもこれはかなりまずい対応になるので、その点についてはご理解いただいて、限られた財源になるので有効に使っていただきたいと思っている。

【関澤委員】

- ・もう1点、何が根拠でこうなったのか不思議だが、協議会委員の任期については連

続2期までということ、私は5期になるが、2期ぐらい地域協議会委員になったとしても訳が分からないのではないかと、この間、私は地域協議会で大反対したのだが、アンケートでもそういう意見が多かったのか。何で連続2期までになってくるのか分からない。

【山岸会長】

- ・関澤委員。資料に書いてあるとおおり、それはなくなっている。今までどおりである。2期で終わりというのはなくなっているの、答えてもらうまでもない。
- ・先ほど、薄波副会長と新部委員も言っていたが、使う補助対象が市のものだと補助金の重ねになるからダメだという話になっているが、実は私たちは全戸アンケートの中で道の駅という大きなプロジェクトがある。道の駅だから本当は観光の担当課が国交省と一緒にしてもっと活性化できる手立てがあるわけだが、今のところなかなか部分的な修繕程度のお金しか動いていなくて、私はそこに、この事業からお金を動かすことができれば、これは来るにも臨むところで、吉川区だけでなく市の活性化にもつながるはずなのだが、補助金を重ねるということがダメだということで今まで遠慮していたのだが、なんとか考えていただけないか。ほかに動かせるものがないからそこに行かざるを得ない。特に今、緑地が遊んでいるので、あそこは芝植えするとかいろいろあるし、桜の木も川沿いに植えたいし、そういう時に融通できる部分があればと思う。芝を植えると管理が大変で、管理費も当然出てくる。それを含めて、そういう事業も何とか範囲に盛り込んでいけないのかという住民の思いが、この補助事業につながればありがたいと思っている部分があるので、また検討いただければありがたい。

【薄波副会長】

- ・今の道の駅の話もそうだが、吉川区はやはり尾神岳と道の駅が要になっていると思う。そういう意味では、尾神岳の市道の整備というのは以前から話題に上がっているが、予算がないとか使われなくてとかそういう話が出ている。尾神岳ではパラグライダーの大会が結構行われている。市長杯も県知事杯も。そういうソフト事業に絡めて尾神岳の側溝整備の申請とかは可能なのか。

【内海地域政策課】

- ・なかなか即答しかねるが、そういったところまでは想定はしていなかったところであるし、なかなか提案してもと言われることも理解できるし、一方で道の駅と尾神岳が大切だということも私も常々聞いているので重々承知しているつもりではあ

るが、やはりそれぞれの観光セクションとか道路のセクションとかの中でしっかり詰めさせていただくべきものだと思っているので、よろしくお願ひしたいと思う。

【山岸会長】

- ・ほかにないか。
(なしの声あり)
- ・それでは地域政策課は、退席してもらおう。
(地域政策課が退席)
- ・今ほどの報告事項でかなり時間をとっているが、今日のメインみたいなもので仕方がないと思う。ほかに事務局、お願ひする。

【山本次長】

- ・情報提供として、上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組スケジュールの変更があったので それについて説明させていただきたい。
(資料 2「上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組スケジュール変更について」により説明)

【山岸会長】

- ・今の説明について、意見や質問をお願ひする。いかがか。なければ続けて事務局お願ひする。

【岩野所長】

- ・私の方からは、昨年 11 月 21 日に発生した一般県道原之町上下浜停車場線の復旧工事の進捗について報告をさせていただく。崩落してから冬が過ぎて 4 月の時点では、まだ観測した結果を分析しているところだと県から報告があった。この分析結果が、ゴールデンウィーク明けには出るということを受けていたので、5 月 13 日に再度県に確認したところ、この分析結果をもとに工事の進め方を協議し、降雪前には完了させる予定ということであった。私どもも県に遅れることのないようお願ひをしながら進めていきたいと思うし、新たな情報等々は、地域協議会の中で報告をさせていただきたいと思っているのでよろしくお願ひする。

【山岸会長】

- ・実は今日来ておられる橋爪市議の毎週出されている広報の中に今の件が載っていて、これは委員の皆さんにもっと早く共有する部分だと思ったのでお願ひしたところである。今後とも市議の広報で知るよりは、私たちがせっかく行政と顔を付き

合わせる場面があるので、5月13日というから仕方がないかもしれないが、知り得た情報は早く流していただきたいと願います。

【岩野所長】

- ・市議にも確認してほしいという話もあったので、そこも受けて確認をして市議と情報共有させていただいていた。ただ、地域協議会の皆様にも報告をもっと早くというところはあったのかと思うが、会長の言われるように今回このタイミングでということをお願いしたところである。急な報告とかそういう部分については、地域協議会を待たずして、何かしらの方法で報告をすることも一つ考えなければいけないと思っているので、その際にはまたそのように配慮させていただくのでよろしく願います。

【山岸会長】

- ・事務局でほかになれば、次に自主的審議事項に移る。これまで皆さんと自主的審議事項を重ねてきているが、消火栓に関して、新しい部長等をお呼びしてという話を前回はさせていただいている。今、それに関しては、事務局を通して交渉と言うかスケジュール調整というか、していただいているところである。早いうちにこちらの方に消火栓使用に関して話し合いができるような状況になるかと思うので、もうしばらくこれに関しては待っていただきたいと思う。
- ・そして、もう1つだが、今日実は仕事で中学校に行く機会があり、新しい校長と会って少子化に伴う学校統合が出てくるのではないかと、地域から学校がなくなるのは非常に寂しい思いがあるので、今の保護者の皆さんやこれから小中学校の保護者になる皆さんはどういうふうに考えているのか、意見交換させてもらいたいということを改めてお願いしてきた。その時に、実はアンケートという手もありますと、向こうから話をいただいた。これに関して教育・文化グループ長とも話した。まだ話の途中だが、アンケートという一つの手もある。これは無記名で皆さんから、保護者から意見をいただける簡単なやり方と言えば簡単なやり方なのだが、でも、顔を見て1回は話をしなければいけないだろうという思いもあるので、アンケートはアンケートとしても、中学校だと2年と1年の保護者、それから小学校、保育園、こことはやはり意見が出ないかもしれないが、一度は顔を合わせて会合を持つべきという思いでいる。この辺に関して、アンケートという声も含めて皆さんの考えを確認させてほしい。関澤委員からどうか。一人ずつ聞いてみる。学校も年度内にとすることはなかなかすぐ返事できるものでもないが、一応、私たちの任期は来

年度までと伝えてあるので、2年度の中のどこかで20分、30分で結構なので保護者と話し合いを持たせてほしいということをお願いしてきた。そういう形を考えつつも、アンケートというやり方をどう考えるのか。いかがか。

【関澤委員】

- ・それも良い考えかと思う。

【斉藤委員】

- ・会長が言うように、アンケートは非常に良いと思うが、その説明とか話す場というのは大事なのかと思う。そのアンケート以前にどういう課題があるかということ。ただ、その場を設けた時にももちろん意見が出る場合もあるし、意見が出ない場合もあるということ踏まえた中で、アンケートの前にやはりちょっと話し合いの場を設けるのも必要なのかと思う。

【大滝委員】

- ・アンケートの案には賛成である。内容にもよると思う。どういった内容をアンケートにしていくのかをよく吟味しないといけないと思う。中学校、小学校の生徒の人数も皆さんお分かりだと思うが、私も今日中学校に行ってきたが、3年生が21人、2年生が20人、1年生が11人。校長先生は、学年で10人を切れば当然、複式になるだろうという話をされていた。多分、来年は情報だと7、8人しか小学校に上がる子どもがいないのではないかと思うので、本当に保護者がどう思っているのか。ここに学校がなくなるのは寂しいし、なかなか大変なことになると思うので、内容も含めて、まずアンケートでも良いかと思う。

【太田委員】

- ・アンケートは良いと思う。どちらも良いと思うが、なかなか皆さんで顔を合わせて話をする機会を設けても、全員が集まって来るというわけでもないと思うし、なかなか意見としても言いにくい人もいる。アンケートだったら全ての人からいろいろな意見が吸い上げられるのではないかと私は思う。そういうことに関心を持っているということで、意見交換会というのも意義があると思う。アンケートは細かいことまでは出ないが、全体の雰囲気、大雑把に皆さんの心配とか不安とか将来のことをつかむだけでもアンケートは良いのかなと思う。

【上野委員】

- ・自分も中学校のPTA会長をやらせてもらって、自分がPTAをなくした張本人なのだが、その時も保護者からアンケートをいただいたが、アンケートで終わらせる

なという意見も耳に入った。やはりどうしてそういうふうにしたのか、役員の人たちに言いたいこともいっぱいあったのに、アンケートで終わらせてしまったというような意見を耳にして、つくづく簡単にアンケートで終わらせてはいけないのかなと思う。やはり保護者の人たちも心配だろうし、キャッチボールトークではないが、アンケートの中に今後どうしたら良いのかという意見の場所もあれば別にアンケートだけでも良かったのだが、やはりちょっと話し合いの場を持ちながらも、最終手段がアンケートなのかなと思う。

【田中委員】

- ・アンケートは良いと思う。実は今回、地域協議会だよりを作る時にアンケートをつけたらどうかと、消火栓のこととか小学校の統合のことについて、今、スマホを使って簡単にアンケートができるので、QRコードを付けてやってみたらどうかというのを提案させてもらった。小中学校を統合したいというのは、私たちができないと決めるわけではないと思うので、話をする前にやはりアンケートをして、どんなふうに困っているのかとか、どんな心配があるのかという、皆さんの意見をまとめるための会議をするために、アンケートの意見を使うという感じでアンケートを取ると良いと思う。その方法まで考えていたので一応発表させてもらおうと、地域協議会だよりに小中学校の統合についてアンケートを取りたいというような文面をつけて、何でこれをするのかという文言を書いて、そこにアンケートをつけてアンケートも項目がいくつも作れるが、簡単にチェック方式でも良いし、文を書くところもあるのでそれをつけて皆さんに答えてもらって、それを基に話し合いに臨むということをすれば保護者の人たちもこういう意見があったがどうかと投げかければ意見が出しやすいのかと思うのでアンケートは賛成である。

【田邊委員】

- ・私もアンケートは賛成である。アンケートを出して、皆さんから私たちが考えられないような返事も返ってくると思うので賛成である。それを基に対面での話し合いをさせていただいた方が良いのではないかと思います。

【新部委員】

- ・アンケートと対面の協議の順番をどうするかという問題で、最初に対面やってからアンケートを取るというのものもあるかも分からないが、今、皆さんの話を聞いていると、確かにアンケートを取って、その後それをまとめるために最終的に協議するというのも、私は、上野委員が言われているように、対面なしで決めてしまうのもど

うかと思うが、親御さんからしても、事の重大というか、かなり重要な課題だと思う。問題は結局アンケートの作り方だと思うが、我々が課題にしているそういう趣旨とか、これを取り上げているという重要性というか、その気持ちをまず説明した上でのアンケートにしなくてはいけないということと、そのアンケートの内容もやはり皆さんが言っているようにAかBか選んでくれというようなアンケートではなくて、もう少し工夫しないといけない。AかBか選ぶという話になると何かちょっと最後はどうにもならないと思う。Aが多いとかBが多いとかそういうアンケートの取り方ではない。しかし、意見を述べてほしいと簡単に言うと誰も意見を書いてくれないというのもあると思うし、その辺、工夫を確かにしなくてはならない。休みがないとか忙しい人もいるので、やはりQRコードで出してもらおうというものすごく良い案だと思う。QRコードでは2回も3回も出せないのか。同じ人が2回も3回も出せるということはないのか。仕掛けが分からないが、そういうことも含めたところでやはり地域協議会が、保護者の心配しているそのことに対して、総意を求めているのだという趣旨をよく説明しないとパンと投げられてそれで終わりになってしまうと思うし、その辺をまず準備した上でのアンケートが一番良いかと思う。

【橋爪委員】

- ・アンケートに絞ると、地域協議会の独り善がりにならないようにしたいと思う。何のためのアンケートかというものを、まずは、保護者の代表と地域協議会の代表で目的と内容を話した上で、理解を得た上で、両名の署名を持ってアンケートをすると思う。地域協議会だけで出すとまた勘違いの部分もあるし、了解を得て両方で出したらどうか。その上で代表者と話して2回、3回くらい打合せをして、理解を得た上で、保護者にアンケートをする。場合によっては、保護者の方はアンケートはいらぬというかもしれないし、その辺は、一方的にならないようにしてほしいという気がする。

【武藤委員】

- ・アンケートは賛成である。気軽に意見を出してもらえと思う。

【薄波副会長】

- ・アンケートを取る事自体については、私は賛成である。アンケートというものを皆さんがどういうふうに捉えているかということが少し心配なところである。取り方によっては、意図的なアンケートになってしまう可能性もあるし、意見を書く

枠を作っておいても何も書いてこない、そういう可能性もある。また、そのアンケートを作るにあたっては、今、皆さん言われたように十分に事前に協議するなり吟味するなりした上で、内容をしっかり整理して取らないといけないと思っている。アンケートを取る上で、そのアンケートの紙だけで良いのかといたらそうではなく、今、この街で起きている事例を挙げて、ほかではこういう状態だと、ここではこうなっていると、いろいろな事例の説明も必要ではないかと思う。そういうものを材料にして、では、自分たちのここではどうしていったら良いかを考えてもらうようなアンケートにすればちゃんと答えてもらえるのかと思うし、そのアンケートの中に皆さんとの協議が必要か必要でないかという項目を設けて、協議が必要という意見が多ければ、意見交換の場を設けて直接話を聞くというようなやり方もできると思う。いずれにしても、アンケートは正直言って怖い。なので、出すまでには、先ほど橋爪委員が言ったように、トップ同士である程度 of 了解を取ってそれから下ろして行ってという段取りをしっかりとやらないと、新しい結果、良い結果が帰ってこないと思うので、その辺の準備をすればアンケートは良いと思う。

【山岸会長】

- ・実はこの話を皆さんにするかどうかだいぶ躊躇したが、受けっぱなしということにはできなくなるし、私たちがここで保護者と話をする大元は、若者定住・移住促進という流れの中で、今の学校の子どもがどんどん減って行って子どもがいない、若い人たちがそこに居付かないという、そこを危惧してどうしていったら良いかということが元だったはずだと私は思っている。代表者とまずは話せということも大事である。ただ、中学校に今、保護者会の代表はいるのか。

(学年の代表はいる、という声あり)

- ・そういうところにまず聞かなければいけないし、我々協議会で進める前に、まずは行政で。私たちが先走るといえることはない。私たちが別に統合して欲しいということではないので。今後の先行きを見ると子どもがどんどん減るのが見えすぎているので、行政も当然考えているし、総合事務所の考えと市役所の考え、教育委員会の考えは違うかもしれない。なので、今ここのグループ長がどう考えているかも実は良く聞きたいし、そういった部分をよくすり合わせながら、設問もそうだが、代表者と先に会うかとか、そういうところも一つずつ潰していかなければいけないと思う。簡単に質問を作ったどうかのことは、私もはなから考えていない。それでは、総合事務所の考え、所長、どうぞ。

【岩野所長】

・総合事務所の考えということではなくて、そこは少し置いておいて、私が今ほど手を挙げたのは、今日、中学校に学校運営協議会があつて行ってきた。その際、教頭先生と話をした内容というか、その情報を伝えたくて手を挙げたということである。実は、教頭先生から山岸会長が来られて保護者と意見交換をしたいという話があったのだが、私もその話を会長から聞いてから行ったこともあり、教頭先生とそのような話になった。そうした時に教頭先生の考えというか思いでは、地域協議会との意見交換というだけでは保護者がなかなか集まらないのではないかということもあつて、意見を話を言葉をいただきたいということであれば、アンケートということもあるのではないかという話をしたということであつた。ただ、その中でやはり私どもの地域協議会は、対面して顔を見ながらの意見交換を望んでいるところもあるので、そうなった時に何かしら考えられることはないかという話を相談させてもらった。すると2つあつて、まず、年に1回、各学年で保護者会を開くようで、その保護者会の後で少し時間をいただいて、委員との意見交換、それは当然テーマは出てくるのかと思うので、そういうやり方はできるのではないか。ただ、今の2年生の、例えば、保護者会をする時は、修学旅行の説明会が2月くらいに行うので、するとするならその頃かと思う。1年生については特に忙しい時期はないので、それに合わせて保護者会を開くこともできるかもしれないという話であつた。もう1点は、先ほど上野委員も話されたが、PTAではなく保護者会というものが、各学年3人の代表がいるそうである。すると3学年かける3人で9人になるので、まずは、その9人に意見を聞くのであれば、連絡も取りやすく対応しやすいと思うので、できるのではないかという話をいただいた。中学校の方でもそういう対応が全くできないということではなく、可能性はあるということで情報提供をさせていただく。

【山岸会長】

・私も今日行って、10分弱くらい話した程度で、その辺の提案自体は受けていない。なので、情報提供はありがたいし、どうするかはこちらでまた相談しなければいけないが、グループ長はどう考えているか。

【丸山教育・文化グループ長】

・指名いただいたので、私の考えを述べさせていただく。アンケートの話から始めたいと思うが、皆さんの意見をお聞きした中で私もそのように思っているところで

あるが、まず、アンケートの考え方としては、やはりまず何を聞きたいのか、またそのアンケート結果をもって、どのように進めていくのかというところを良く整理した上で、アンケートを取っていくことが重要かと思っている。また、アンケートというのは複数回行うものではないということである。基本1回で終わらせるような形になると思うので、アンケートを取る場合については、どのような設問とそれに対する回答を良く精査しておくという形になると思う。そのアンケートの回答の関係だが、なるべくその該当する回答に丸をつけて終わるような形にして自由記述は最小限にしないと、アンケートを取った後の集計や分析が大変になると思う。最後にもう一つ重要な点は、アンケートは取って終わりではなく、結果を回答者にフィードバックしなければ意味がないので、その点にも注意が必要だと思う。今の話のとおり、アンケートだけでは伝わらない部分があるので、対面方式も併せて検討するべきであり、対面の対応も同時並行で進めてもらえればと思う。

【山岸会長】

- ・いずれにしろ、実際にアンケートを作ることになれば、しっかり相談に乗ってもらう形になるので、改めて話したいと思うが、今ほど皆さんの話を聞いて、まずは保護者の代表と話し合うのが最初かと思う。私の個人的な思いではないと思っているが、地域に学校という建物がなくなるということは、ただ中学校がなくなった小学校がなくなったではなくて、そこの保護者だけでなく地域住民が非常に寂しい思いをすると私は思う。子どもがそこに通っていることによっていろいろな関わり合いが、実は学校活動だけではなく、いろいろな部分のつながりが起っている。それがなくなってしまうという現象が起きるので、若者の定着を考えるにはやはり教育がまず必要で、意見交換をしなければならぬというところに行くのだが。今日は中学校の話であるが、小学校は、PTAがあるのでPTA会長や副会長と話をすることも考えられる。まずは、事務局とも相談したいと思うが、保護者の代表者の皆さんに私たちの思いを伝えて、今後のやり方などを話し合ってみようか。それは、私たち正副会長とできれば武藤委員も絡んでもらえないか。私も良いと思ったが、小中一貫というのは良い面が多くあるので、デメリットもあるのかもしれないが、非常に良い事案の例が武藤さんからいただいた資料で私ももらっている。それをいずれ皆さんにも見てもらえれば良いと思っている。そのような進め方で、まず保護者の代表者と顔を合わせてみようか。そういう動きをさせてもらって良いか。

【田中委員】

- ・意見交換会をするという、文字どおり取ると意見を交換することなのだが、私が思っているのは、地域協議会がこのことに対して保護者から話を聞いて、その思いをまとめて、行政に提出することが地域協議会の仕事なのかと私はイメージしているが、それは合っているか。

【山岸会長】

- ・最終的にはそうだと思う。

【田中委員】

- ・私たちがこちらから拾った意見を取りあえず集約するだけで良いのではないかと考えている。行政と話し合うのは、保護者がいないところであるところであって、保護者の意見交換会は、保護者の意見を聞く会として少し柔らかくして、こちらは皆さんの意見を聞き、意見を集めるという形にした方が保護者は、私も保護者なので、話がしやすい、話を出しやすいのではないかと考えている。

【山岸会長】

- ・それは全体会というか、皆さんとそういうことをやるようになった場面で良いのではないかと考えている。まずは、代表者の皆さんと会って話をし、意見を伺う会でも何でも良いが、そういうことをやるべきなのか、それともアンケートをいただいてそれを私たちの中で咀嚼していくのか、そして、最終的に保護者の望む方向がはっきり、まあそんなに簡単にいくとは思わないが、行政につなぐ部分が出てくるのか、地域協議会として吉川区の急激な人口減少の一部である、若者が移住・定住してこないというそこをどう解決していくかのところにつなげられればベストである。そう考えている。今の意見は貴重に受け止めた。今後の流れとしてはそれを活かさせていただきたいと思う。こちらでまた相談して、代表者と会って話す方向で考えたいと現時点では私は思っているので、ちょっと預らせてもらいたい。また、方向性が出たら皆さんにお話しする。今日しゃべって明日やるなどという簡単なことだとは考えていないので、よろしくお願ひしたいと思う。
- ・あとは、自主的審議事項としては、消火栓の話と道の駅活性化。道の駅活性化について、これは産業グループ、建設グループが今、柿崎区総務事務所なので。今のところ、活性化会議の予定はまだ確認していないのか。

【山本次長】

- ・道の駅活性化検討会の開催の見込みであるが、開催する方向では考えているので、

今、市の内部で道の駅の活性化の進め方を検討しているところであり、その状況に応じてまた検討会の皆さんに連絡するということ考えているので、まだ具体的な日程、開催時期は決まっていないということである。

【岩野所長】

- ・補足させていただく。今の市の動きとして、実は観光施設課と柿崎そして吉川この3者で道の駅を今後どうしていこうか、どうするのだというところの話し合いを行っている。その部分でのいろいろな整理だとか、あとはどういうものが必要になってくるのか、どういう状況になっていけば良いのか、等々を含めて、今、話し合いを行っており、その中で検討委員会の皆さんから意見をいただくタイミング、場面ということになった時点で開催させていただきたいと考えている。

【山岸会長】

- ・行政の進め方は、今、聞いた。ただ、吉川区住民の思いとはやはりズレがある。住民が大事にしたい、活性化したいという一番の大元に道の駅と尾神岳観光があるわけである。そこに寄り添う総合事務所であってほしいし、我々地域協議会はその声を強く伝えていかなければいけないし、少しでも前倒しになるように何らかの方策が打ち出せるように動きたいと思っている。今、聞いた中では協議しているのもう少し待てという話に私は受けた。私たちは、前期の4年と今期の2年で6年はこの話をしている。しかし、微々たる改善・改修が、尾神の市道もそうだが、道の駅もそうだが、少しずつやってもらっているのは良く分かっているが、そういうものではない。住民の思いに市の行政が対応して動いてくれるようでないし、我々は意見書を出している、そんな部分もあるので、今後、皆さんもいろいろな部分でそういう行政に対しての訴えを強く、時々強く言う場面をお願いしたいと思っている。確かに諮問と答申の役割だが、地域の活性化に関しては、先ほどの地域政策課の話もあるが、もう区を渡って、道の駅は柿崎と大湊も取り込んで活性化に本当は向かわなければならぬ場所のはずなのである。その当の所在地の吉川区が腰を引いているようでは困る。これちょっと語弊があったか、協議していただいているので。協議会として後押しをやっていければと思っている。皆さん意見ないか。今の所長の話も聞いて、何かあるか。

【田中委員】

- ・前の時にアンケートを取ったが、それは私たちの前の代だったと思うが、それについてまとめるような、地域協議会としてこうするみたいなものはまとまっている

のか。

【山岸会長】

- ・アンケートに関しては、皆さんに結果を報告してある。広報か何かに載ってるはず。地域協議会だよりに載っているか。そのアンケート結果を基に、とにかく老若男女が尾神岳と道の駅の2つに関しては大事にしたい場所というか、これから吉川区の大事な起爆剤という部分とおっしゃっているのは間違いない。それと行政が起こした活性化委員会があるので、それと一緒にってところである。

【田中委員】

- ・話し合いをするための資料として使ってもらおうという感じのアンケートということか。

【山岸会長】

- ・道の駅に関しては、産業・建設グループ長を筆頭に、区内のアンケートの結果はみんなに見てもらっている。ほかにいかがか。また皆さんの方で、こういう方法がどうかなというものがあれば、ぜひ、遠慮なしに伝えていただければありがたい。事務局でも構わないし、私たちに直接でも構わない。やはり行政から促される活性化ではなくて、我々自身が吉川区の活性化に少しでも貢献できる方向で皆さんの意見をいただきたいと思う。よろしく願います。

【岩野所長】

- ・先ほど現状ということで説明をさせていただいたが、道の駅の担当は当然担当課、木田の担当課もあるし、柿崎区というところもある。ただ、会長が言われたとおりに吉川区に立地しているので、本来であれば吉川区もどんどん関わっていくべきものではあると思う。ただ、その中での役割というところもやはりある中で、なかなか吉川区、そして、柿崎区もそうだが、突っ込んだ話、議論というところができなかったのが正直なところである。でも、今回、この3月、4月からそういうところではなくて、要は3者が連携をして、きちんと道の駅をどうしていくのか、市の方針、考え方というところを今一度考えていこう、整理していこうということを考えていっているということなので、時期を延ばすだとか、引き延ばしているとかということではなくて、今、それに向けてやっとならざるべきところの担当が集まって、本当は遅いかもしれない、だけど、今、本当に進めていくというところでやっている、その辺は理解いただきたいと思っている。よろしく願います。

【山岸会長】

- ・所長の心強い言葉、ずいぶん期待している。私たちも立場上その部分は強く言っていきたいと思う。上杉鷹山の言葉に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」とある。やろうと思ってしっかり向かわないと何も動かないのである。なので、皆さんからもっと積極的に関わっていただきたいのが、アンケートを取った我々は、前期、今期、引き継いでいるので、できるだけ知恵と発言をいただきたいと思っている。よろしく願います。
- ・それでは、自主審議事項のその他ということ、皆さんでこういうのを審議、協議の中にとというのがあればいただきたいと思うがいかがか。無いようなら5番のその他に移る。5番のその他では、長峰城見学会であるようだし、私の歴史伝承保存会でも若干あるのだが、どうか。新部委員。

【新部委員】

- ・チラシを1枚ずつ配布させていただいているが、長峰城址保存会で予算をいただいている、それを有効活用するという事で毎年見学会を実施していて、今年も6月28日に実施する。いろいろ趣向を凝らして講師も新しく呼んでやっているの、ぜひ、興味がある人はおいでいただきたいと思う。事前申し込みをとりあえずしているの、よろしく願います。

【山岸会長】

- ・ずっとこの事業は継続事業になっていて、今日も話に出ていた地域活動支援事業の目玉でもあったので、ぜひ、時間が取れるようなら参加をお願いしたいと思う。ほかであればいかがか。なければ私の方で。吉川区大乘寺歴史伝承保存会、こちらの方で今年度の事業として7月19日の日曜日に、集合9時、道の駅、解散が16時という流れの中で、この7月の事業は、町田古墳と町田の山城、こちらを町田の公民館で先生方から講演を聞いて、それから山の中へ入ろうということになる。改めて皆さんにまたパンフレット等ができたからお配りする。お昼をはさむので弁当持参で願います。どこで食べるようになるかも分からないので、弁当持参、飲み物も持参ということで願います。ついては来月に入って、山道の整備を予定している。こちらでも決まり次第、一応皆さんに流させていただく。もし参加いただける人は、お願いしたいと思っているので、6月に入ったら連絡したいと思う。以上が連絡なのだが、委員さんでほかになれば、事務局で何かあるか。

【山本次長】

- ・事務局からは、今週末に行われる上越市長杯尾神岳スカイグランプリ2026について

て、教育・文化グループ長から情報提供させていただく。

【丸山教育・文化グループ長】

- ・私の方から、上越市長杯尾神岳スカイグランプリ 2026 の話をさせていただきたいと思う。吉川区の代表的なイベントの一つであるパラグライダー大会で、この週末の23日、土曜日、また、24日、日曜日の2日間にわたり、尾神岳スカイスポーツエリアを会場に行われることになっている。今回の体験については、上越市長杯ということで参加人数78人となっている。内訳は、男性が65人、女性が13人で、北は宮城県から南は福岡県までの21都府県から広くエントリーされているので、ご承知置きいただきたい。なお、秋には同様の大会として、県知事杯が予定されている。

【山岸会長】

- ・ほかよろしいか。それでは、次回の日程だが、いつものように第3木曜日ということでお願いしたい。6月18日、木曜日、午後6時30分からということで調整をお願いしたい。それでは、最後の挨拶を副会長にお願いする。

【薄波副会長】

- ・今日は、長い時間お疲れ様であった。気温の変化の激しい日々が続くので、体調には十分気を付けてもらうとともに、一昨日には熊出没警戒注意報というものが2ヶ月間出たので、山に行かれる人はぜひ、注意いただきたいと思う。それでは、これで第2回吉川区地域協議会を終了する。

11 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：025-548-2311（内線214）

E-mail：yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

12 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。